

# 2009年3月期業績予想と 経営方針

代表取締役社長 佐藤 潔

2008年5月13日

# 内 容

1. 2008年3月期成果
2. 市場環境
3. 2009年3月期業績予想と経営方針



# 2008年3月期成果



# 2008年3月期成果

## ▶ 最高収益の達成と財務基盤の強化

- 売上高9,060億円, 営業利益1,684億円(利益率18.6%), 当期利益1,062億円
- フリー・キャッシュフロー 867億円
- D/Eレシオ 6.7%
- ROE 21.4%

## ▶ SPE分野で市場の伸びをアウトパフォーム

- 新製品が売上拡大に寄与

## ▶ FPD分野で第10世代装置受注

- 下半期のFPD受注が急伸

## ▶ モノ作り改革の第2フェーズへ

- コータ/デベロッパの新コンセプト工場、稼動開始
- 品質改善がさらに進みコスト削減へ効果

## ▶ 新規事業における進展

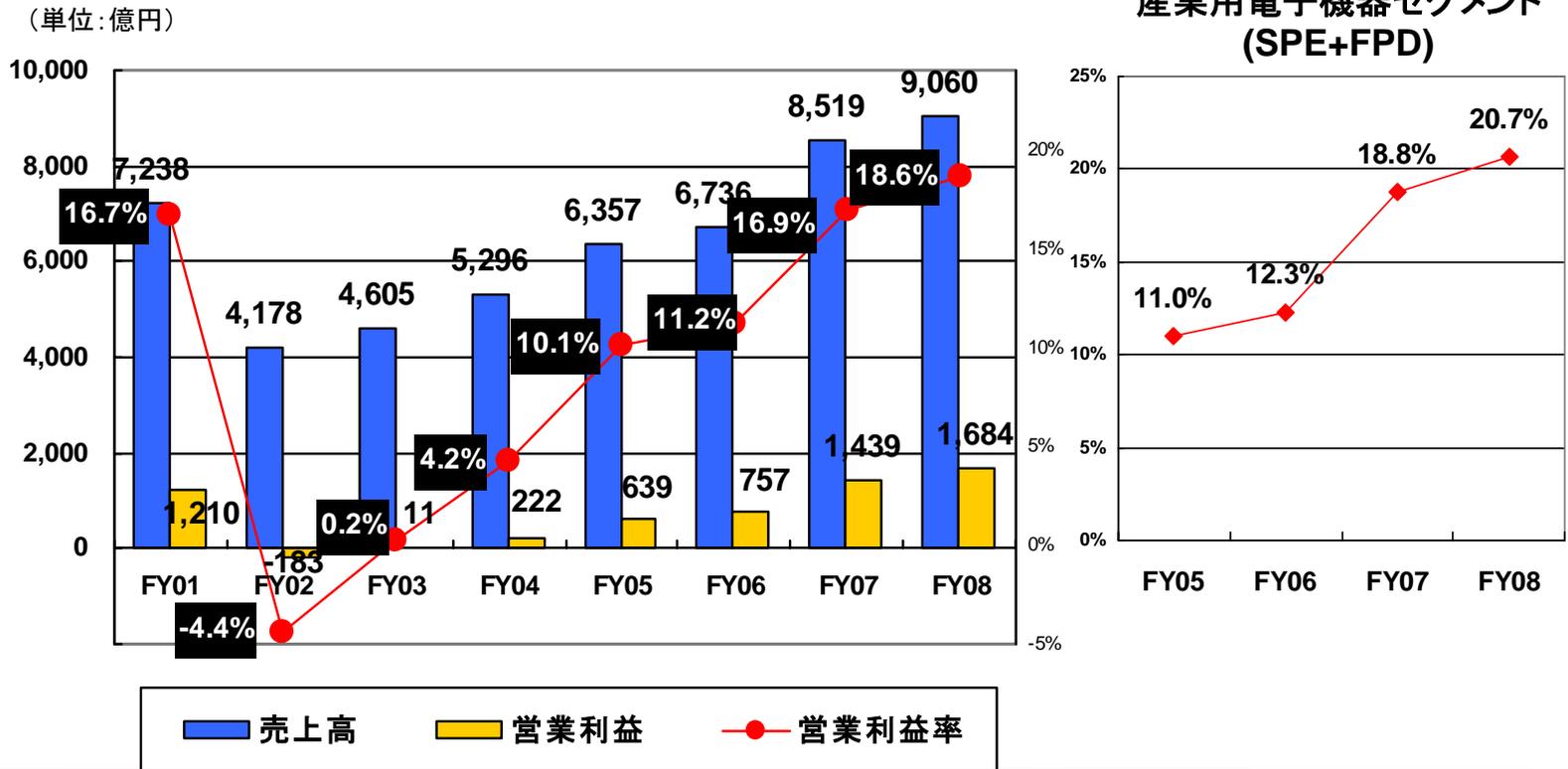
- RLSA事業化促進のために東京エレクトロン技術研究所設立
- 「太陽電池」事業への参入を決定



# 売上、利益ともに過去最高を更新

1<sup>st</sup> マイルストーンとして設定した「営業利益率17%」の目標を十分に達成

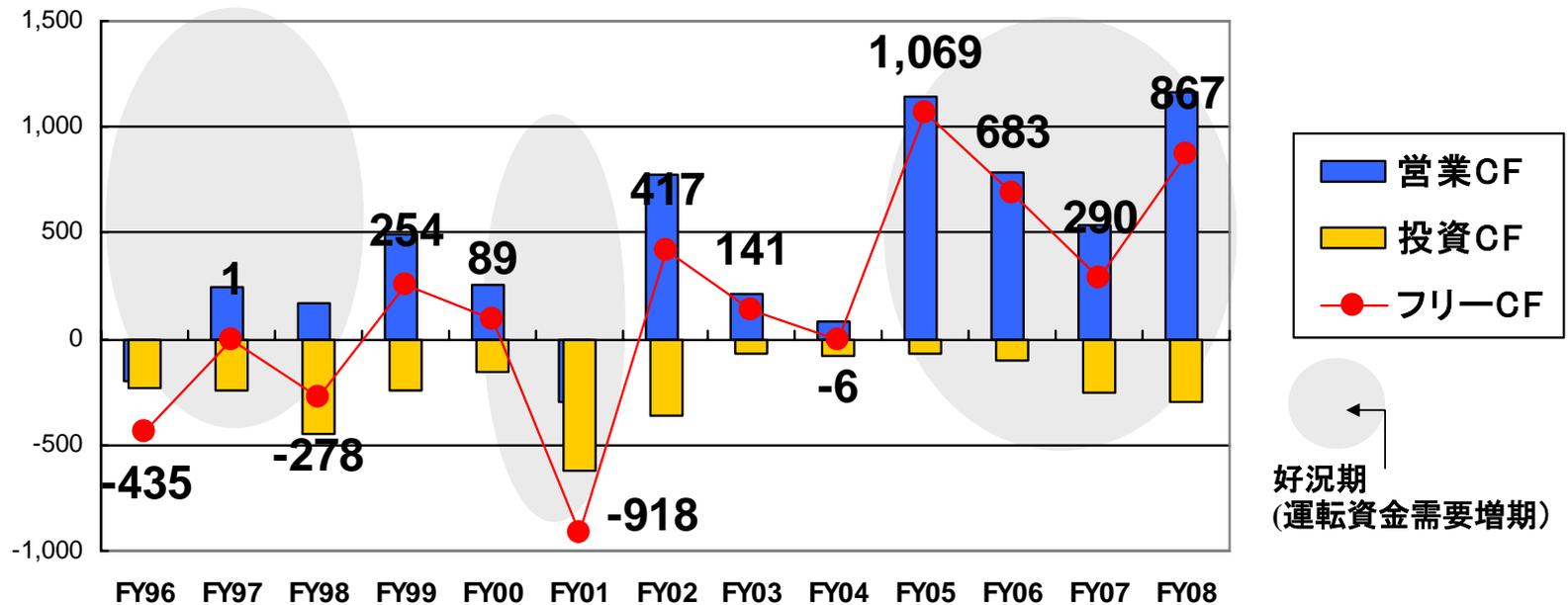
## 産業用電子機器セグメント (SPE+FPD)



# フリー・キャッシュフローの増加

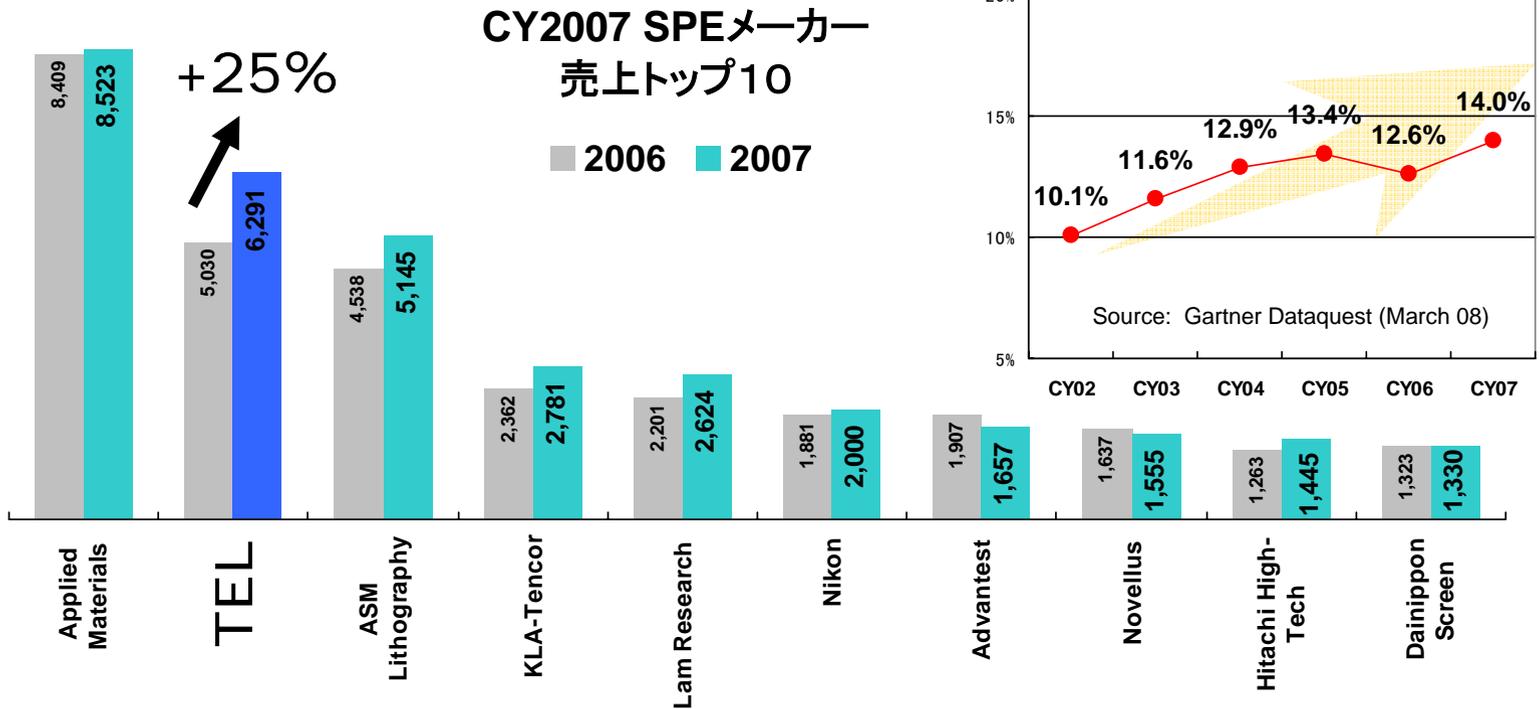
利益向上と資産効率の改善により、867億円のフリーキャッシュを創出

(単位: 億円)



# 市場の伸びをアウトパフォーム

CY2007のSPE市場の伸び +7% を超えて成長



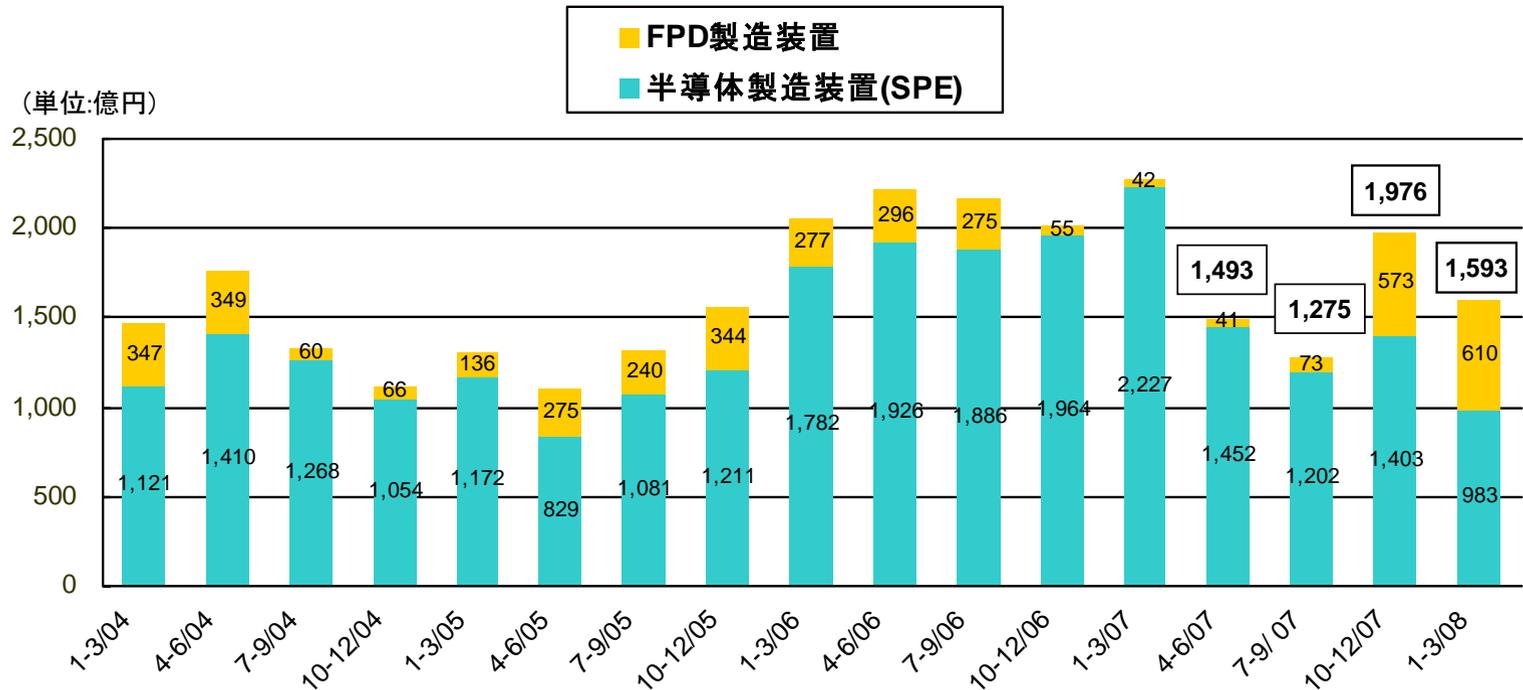
Millions of US\$  
Source: VLSI Research (March 08)



# 市場環境



# 四半期 SPE+FPD受注額



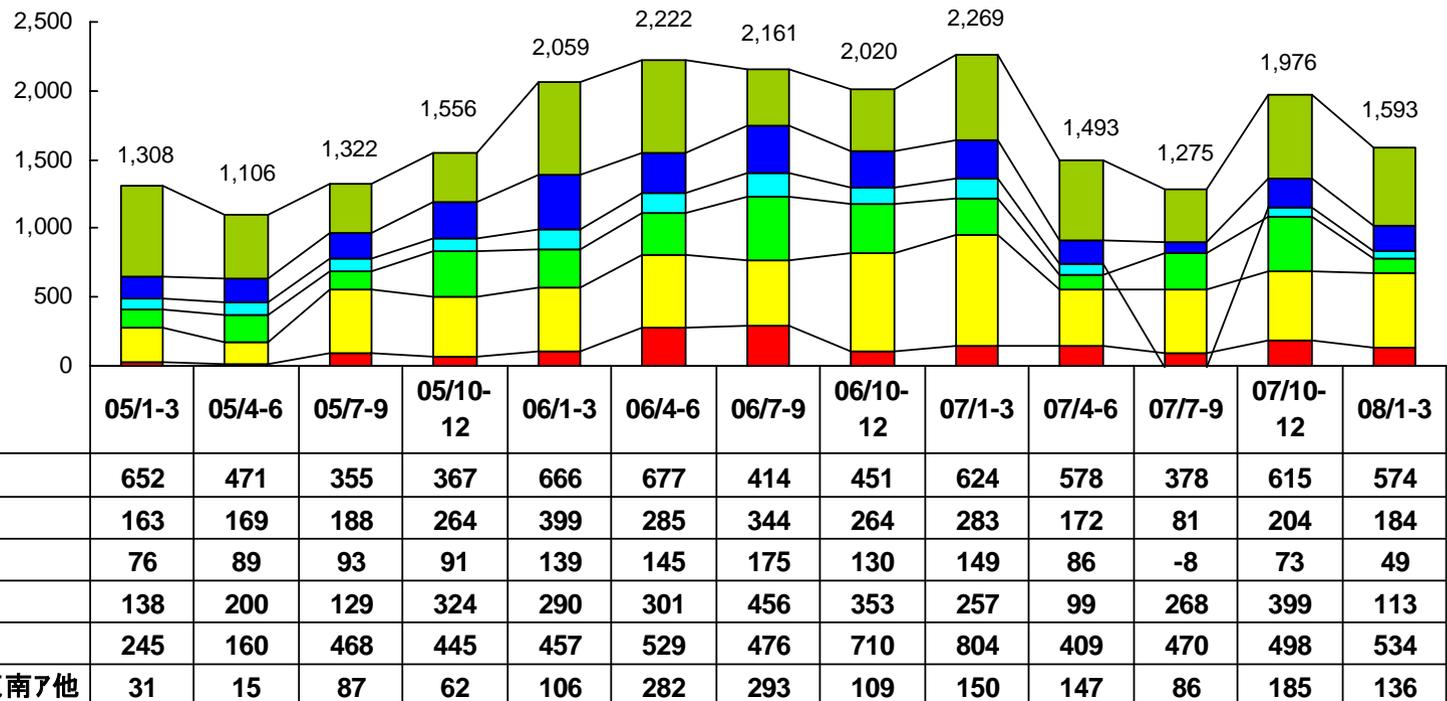
●2005年10-12月期までは単独ベース、2006年1-3月期より連結ベース

●単独ベースと連結ベースの主な差異： 連結ベースは海外現地法人におけるポストセールス受注を含む



# 四半期 地域別 SPE+FPD受注額

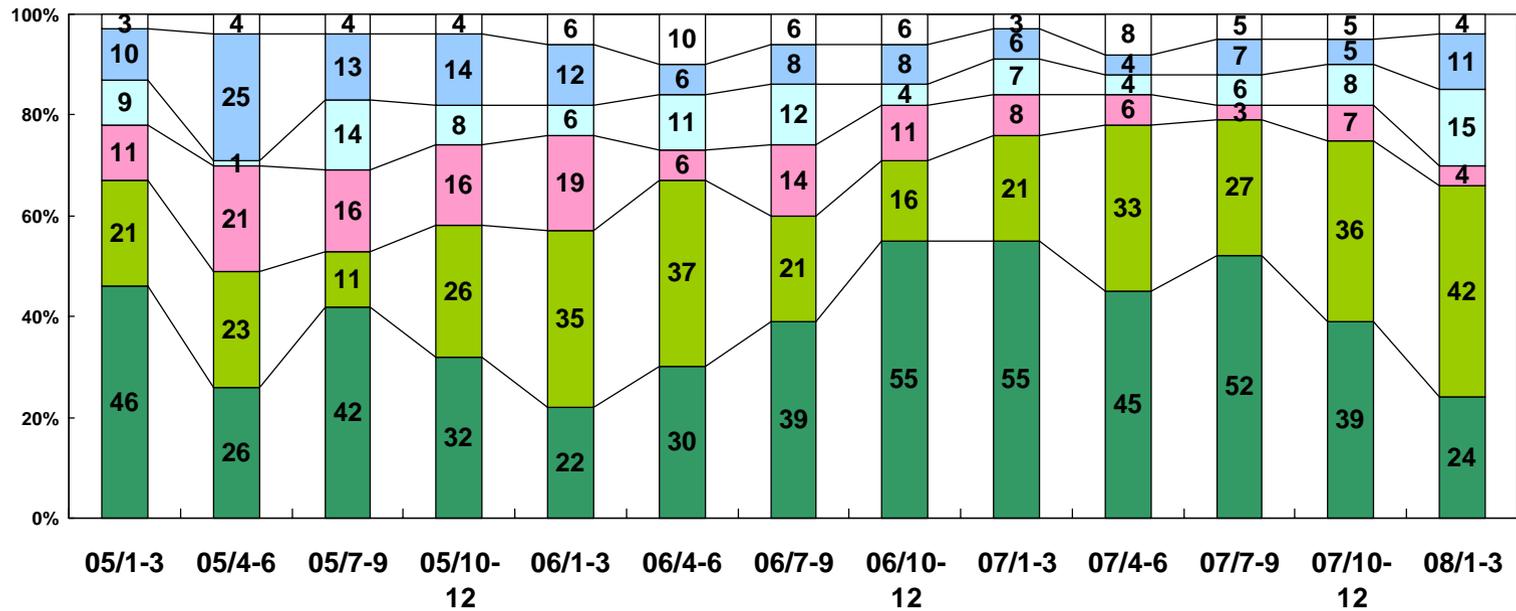
(単位: 億円)



●2006年1-3月期より、受注額を連結ベースで表示しています。



# 四半期 アプリケーション別SPE受注 (本体のみ)



- その他
- システムLSI
- ロジックファウンドリ
- MPU、ハイエンドロジック
- Flashメモリ
- DRAM

(メモリ内訳は当社推定を含みます)

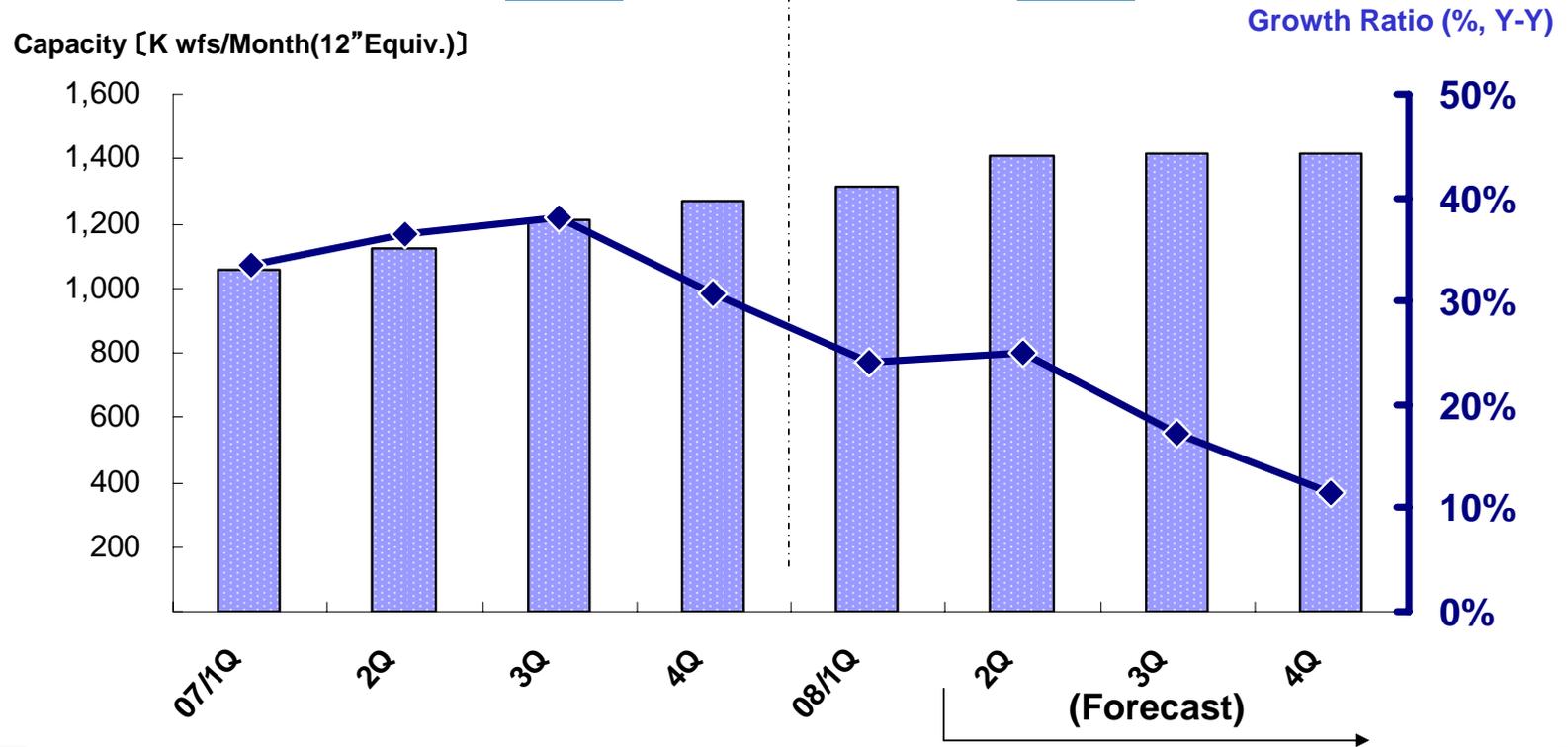


# DRAM製造キャパシティ予測

年間処理可能枚数  
成長率(Y-Y)

CY07  
+35%

CY08  
+19%

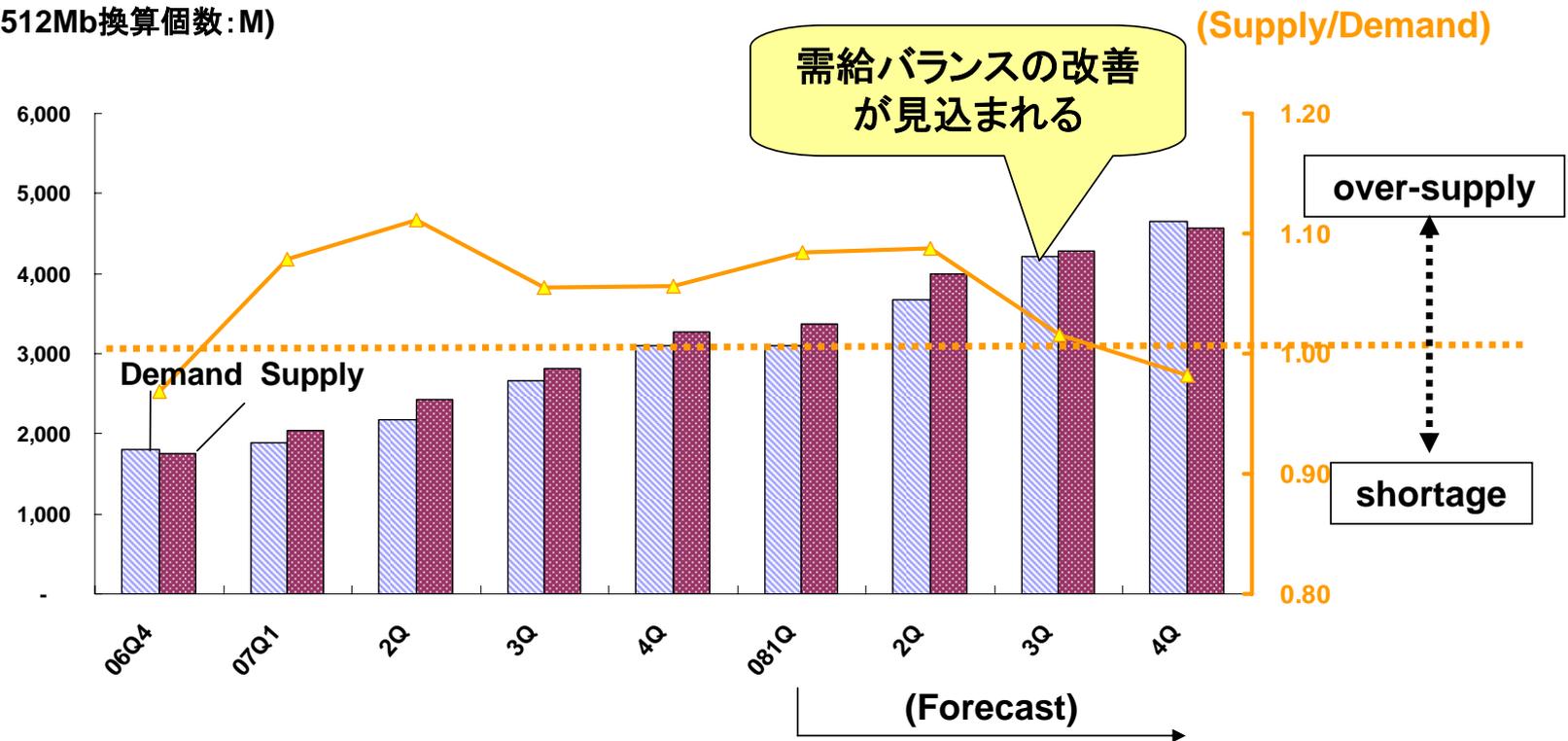


出所: TELマーケティング



# 08年のDRAM需給バランス予測

(512Mb換算個数:M)



出所: 調査会社のデータを元にTELマーケティングにて作成



## 2008年の事業環境予想

### ▶ 半導体設備投資

- DRAM: 需給ギャップ調整が続き、6月まで厳しい環境。ノートPCを中心に需要は底堅く、年後半から投資環境改善し受注増加を見込む。
- NAND: 価格下落が厳しく一部弱含みではあるが、ビット単価低減のための微細化&キャパシティ増強投資が順調に継続。
- LOGIC/ファンダリ向け: 2008年後半より、電子機器需要拡大に向けて最先端設備増強が期待される。

—————▶ 30%程度のマイナス成長を見込む

### ▶ FPD設備投資

- デジタルTVの需要拡大に向けて、大型基板向け装置を中心に回復

—————▶ 40%以上のプラス成長を見込む



# 2009年3月期業績予想と 経営方針



## 2009年3月期業績予想

FPD事業は1年ぶりに活況となるが、SPE事業の減速により、全体として厳しい期となる

(単位:億円)

	2008年3月期		2009年3月期(予想)			
	通期		上期	下期	通期	対前年増減
売上高	9,060		3,000	4,000	7,000	-23%
SPE	7,264		2,080	2,880	4,960	-32%
FPD	680		380	520	900	+32%
EC/CN	1,111		535	595	1,130	+2%
その他	4		5	5	10	+120%
営業利益	1,684 (18.6)		260 (8.7)	580 (14.5)	840 (12.0)	-50%
経常利益	1,727 (19.1)		280 (9.3)	600 (15.0)	880 (12.6)	-49%
税前利益	1,692 (18.7)		280 (9.3)	600 (15.0)	880 (12.6)	-48%
当期純利益	1,062 (11.7)		170 (5.7)	380 (9.5)	550 (7.9)	-48%

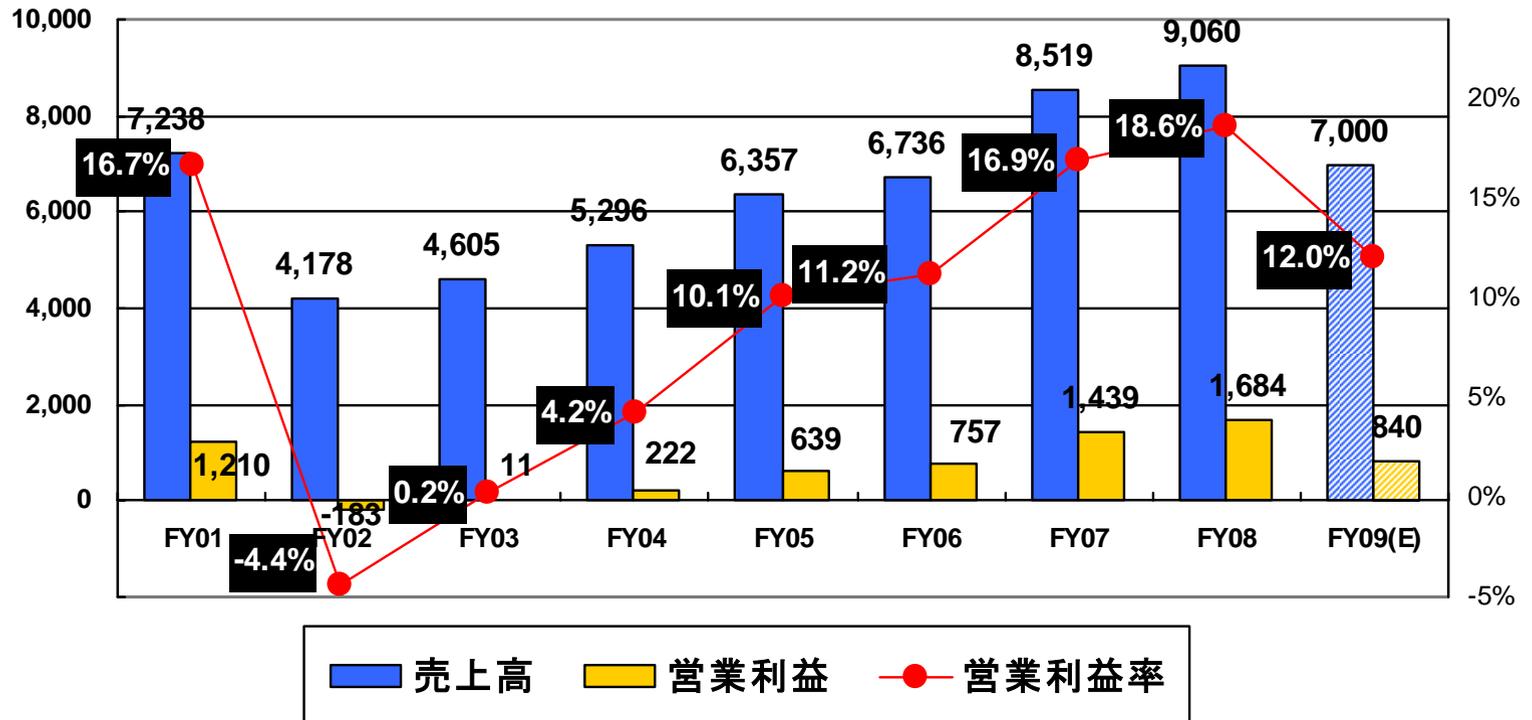
( )内は利益率%

SPE: 半導体製造装置, FPD: FPD製造装置, EC/CN: 電子部品/コンピュータ・ネットワーク



# 売上高・営業利益・営業利益率予想

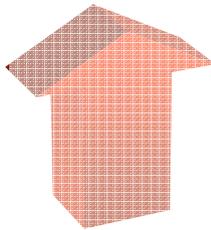
(単位: 億円)



# 当期の経営方針

09年3月期は、次の成長期に飛躍するための備えの時期

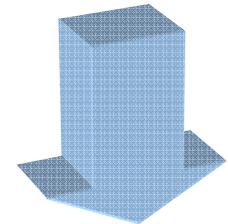
## 強化



- 研究開発・製品開発
  - － 半導体技術革新（微細化・新材料・3Di, etc）
  - － 新規事業分野
- モノ作り
  - － 製造リードタイム短縮
  - － 宮城新工場に向けた準備
- ポストセールス事業

## 見直し/縮小

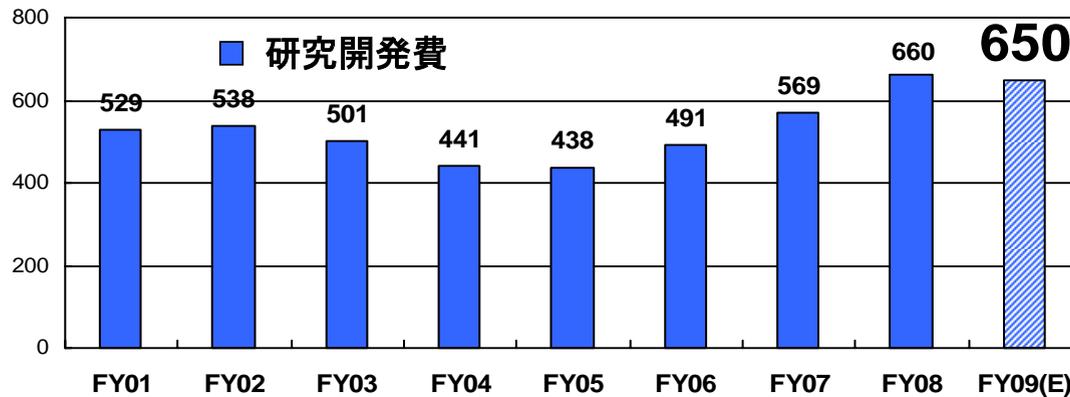
- 経費の大幅削減
  - － グローバルベースでの人員配置見直し
  - － 外注コストの低減, etc.



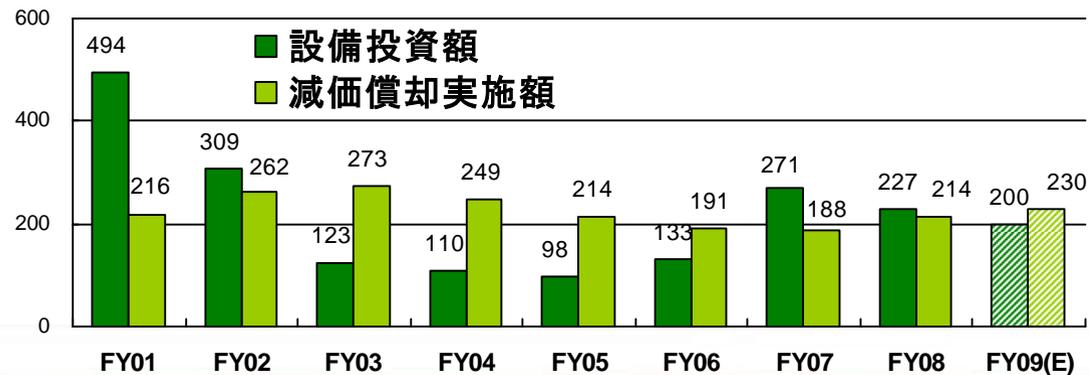
# 研究開発費・設備投資計画

厳しい環境下ではあるが、研究開発費は高水準を維持

(単位: 億円)

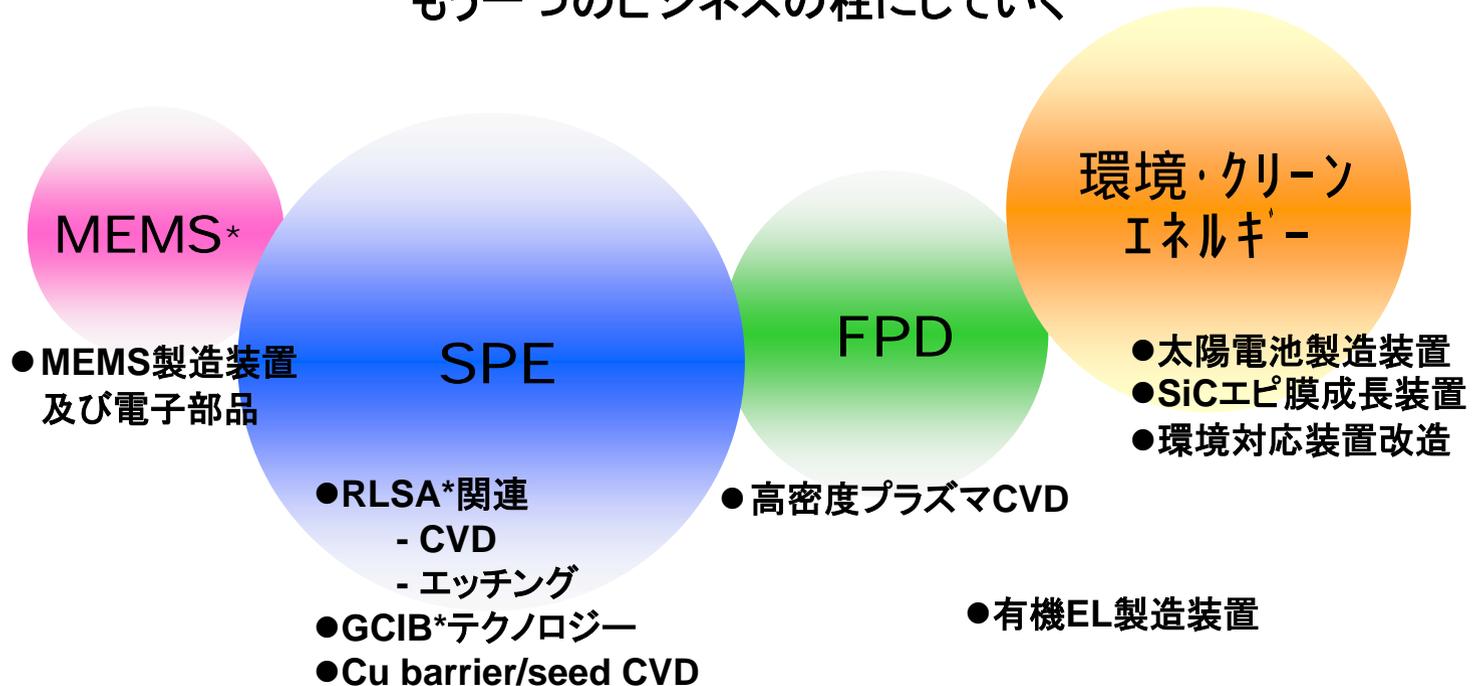


(単位: 億円)



# 新規事業分野での開発を加速

SPE, FPD, MEMSに加え、環境・クリーンエネルギー分野を将来のもう一つのビジネスの柱にしていく



\*MEMS: Micro Electro Mechanical System

\*RLSA: Radial Line Slot Antenna

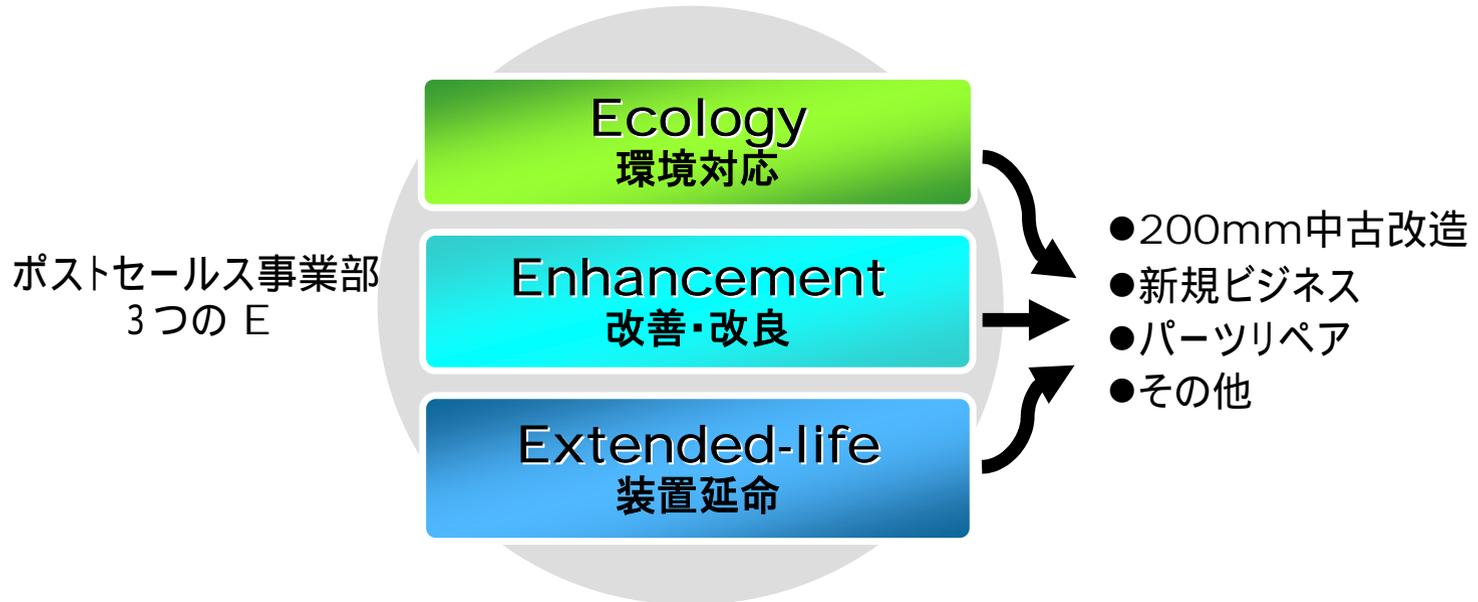
\*GCIB: Gas Cluster Ion Beam



# ポストセールスビジネスを強化

市場の変化・顧客ニーズを取り込むビジネスの展開

ポストセールス本部からプロフィットセンターとしての「ポストセールス事業部」へ



グローバルサービスは従来通り、各BUと営業サービス統括本部の管轄にて行う



# 技術で環境問題に取り組む

## 企業の責任、使命、そして大きなビジネスチャンス



- TEL装置の省エネルギー化を促進

- 省電力・省薬液などでTEL装置の排出するCO<sub>2</sub>を削減

---

- 省電力・高効率デバイスを作る製造装置の提供

- パワー半導体用SiCエピ膜成長装置
- 有機EL製造装置

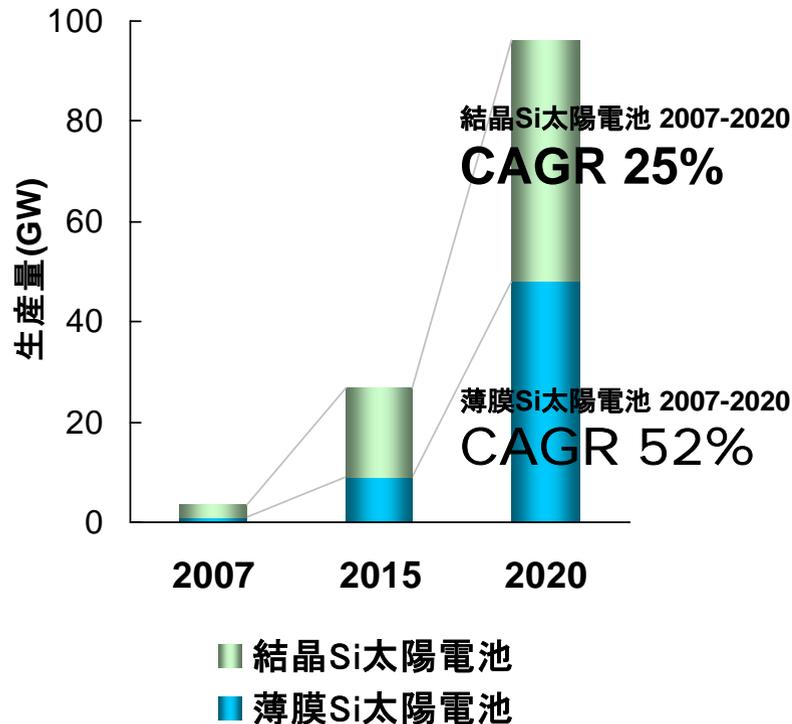
---

- クリーンエネルギー関連の製造装置の提供

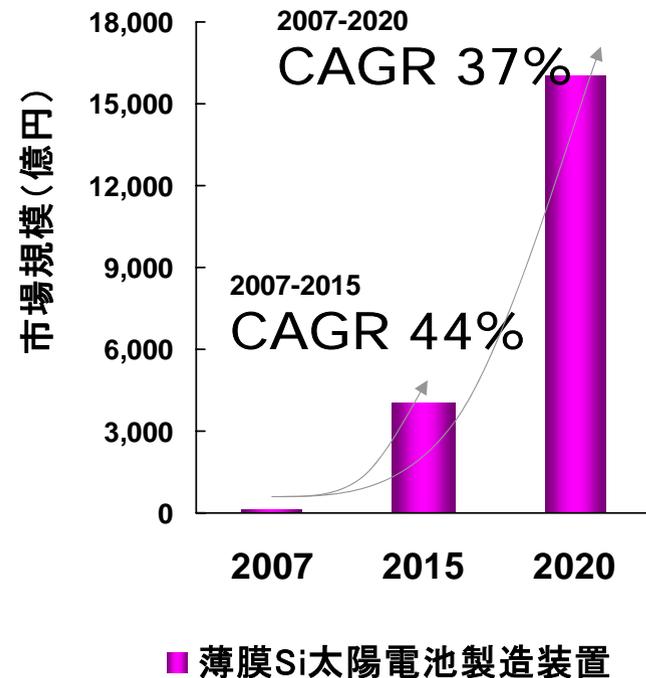
- 太陽電池製造装置

# 高成長が期待される太陽光発電市場

## 太陽電池生産規模



## 薄膜Si太陽電池製造装置市場

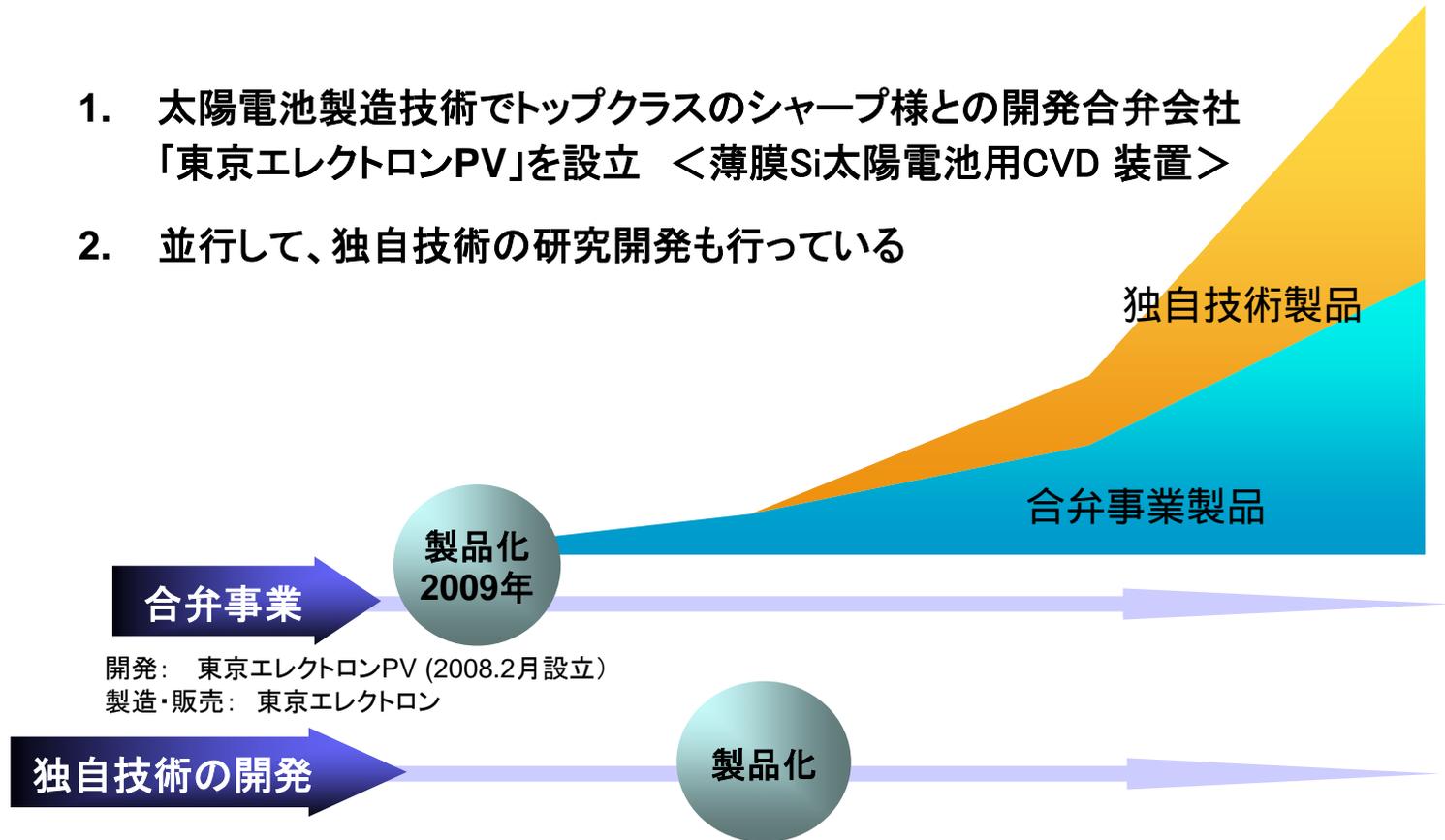


出所：電力需要予測を元にTEL推定



# 太陽電池製造装置市場への参入

1. 太陽電池製造技術でトップクラスのシャープ様との開発合弁会社「東京エレクトロンPV」を設立 <薄膜Si太陽電池用CVD 装置>
2. 並行して、独自技術の研究開発も行っている



## サマリー

- 08年3月期、過去最高業績を更新
- SPE事業環境：2008年は設備投資の谷間の年となる。後半からの回復に期待する
- FPD事業環境：2008年の設備投資は高い成長となる
- TELは次のサイクルのピーク時にさらに大きな成長を目指す。そのための準備期間となる当期09年3月期は、絞るところは絞るが、将来の成長に向けての体制作りと研究開発の一層の強化を図っていく。

